



室蘭市
開港150年・市制施行100年

Muroran

～まち・ひと・みなとつながりが未来を創る～

資料3



第2回 室蘭市地球温暖化対策実行計画策定協議会 室蘭市における脱炭素の取り組み

2022年10月11日

アジェンダは以下の通り

アジェンダ

- 1 脱炭素に向けた取り組みの全体像
- 2 市民ワークショップの実施報告
- 3 脱炭素社会創造協議会・CNP協議会に関する状況共有

1 脱炭素に向けた取り組みの全体像

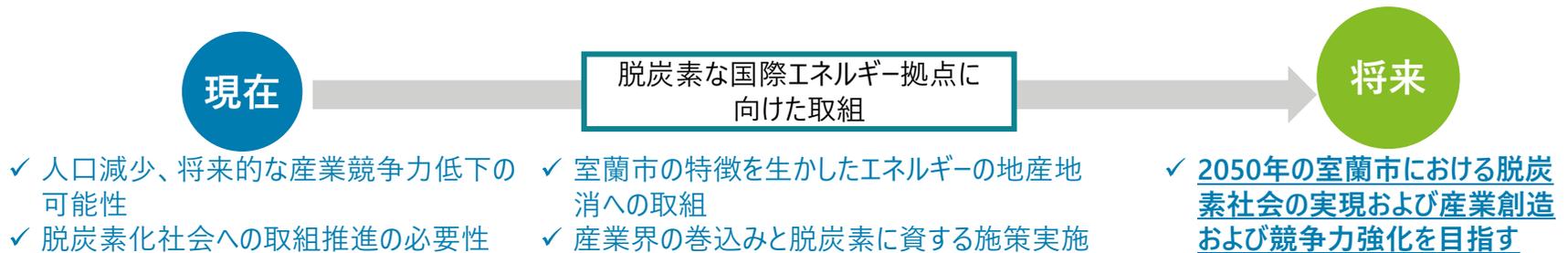
1 【昨年度の実施概要】

室蘭地域における脱炭素社会に向けた将来像の構想、新たな産業創造を目的に、2021年5月設立の室蘭脱炭素社会創造協議会の運営、室蘭エリアの脱炭素化の検討を実施

昨年度業務の背景・目的及び実施概要

背景と目的

- 室蘭市は産業創出や人口減少の抑止を課題として掲げている
- 室蘭市では、2020年2月「室蘭市成長産業振興ビジョン」が策定され、「エネルギー×産業振興」のコンセプトや再エネ・水素の利活用促進などが明記された。北海道では、北海道水素社会実現戦略ビジョン（改訂版）が2020年3月に策定され、我が国でも、2050年までに脱炭素社会の実現が前内閣により宣言されており、脱炭素化に向けた取組の重要性が増している
- 製造業を中心に企業が多く集積し、物流拠点である室蘭港の活用が可能であるという地域の特徴を活かし、産業創造、構成企業の新たなビジネスの創出及び競争力の強化を目的に、室蘭脱炭素社会創造協議会が設立
- 本業務は、国、北海道という広い視点から、室蘭地域における脱炭素社会に向けた将来像を描き、ひいては新たな産業創造、関連する企業の新たなビジネスの創造および競争力の強化を目的としたものである



協議会参加者

- 会員企業：35社・機関（設立時21社・機関）
- オブザーバー：8機関（設立時4機関）

活動内容

- 協議会（全3回）・勉強会（全2回）の開催
- 各種検討（将来像、水素需給ポテンシャル・CO2削減効果、FS案の検討）
- ビジネスマッチング

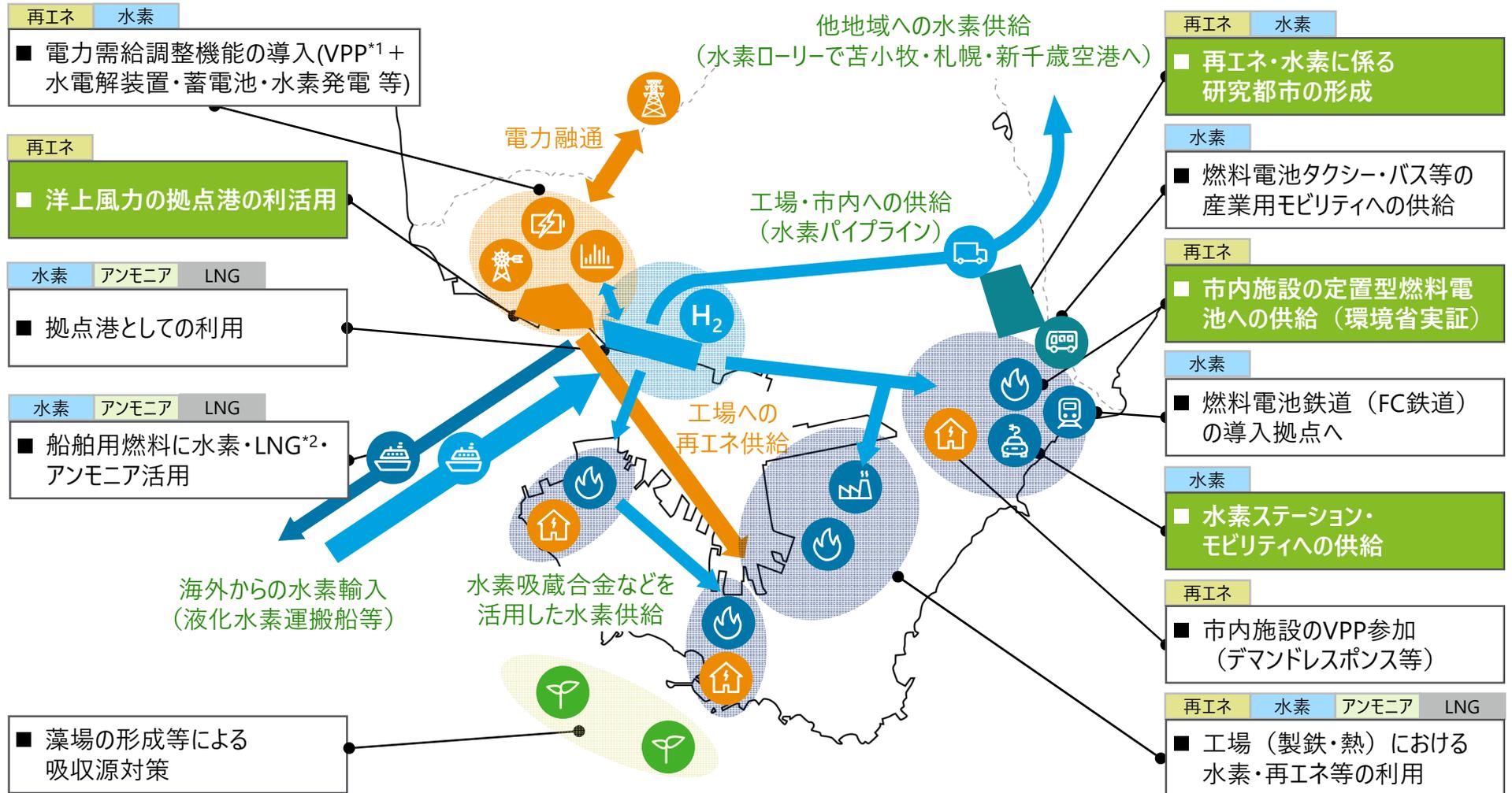
今後の方向性

- 更なる再エネポテンシャルの検討
- ゼロカーボンシティ、カーボンニュートラルポートの検討
- 輸入水素を含めた海外資源活用可能性検討
- 市内供給体制の検討
- FSプロジェクトの具体化
- 経済性、実現性の詳細の検討

【将来像】

域内外の資源を室蘭地域の特性に合わせ地域で活用し、域外への輸送も併せて行う 将来像を検討していく

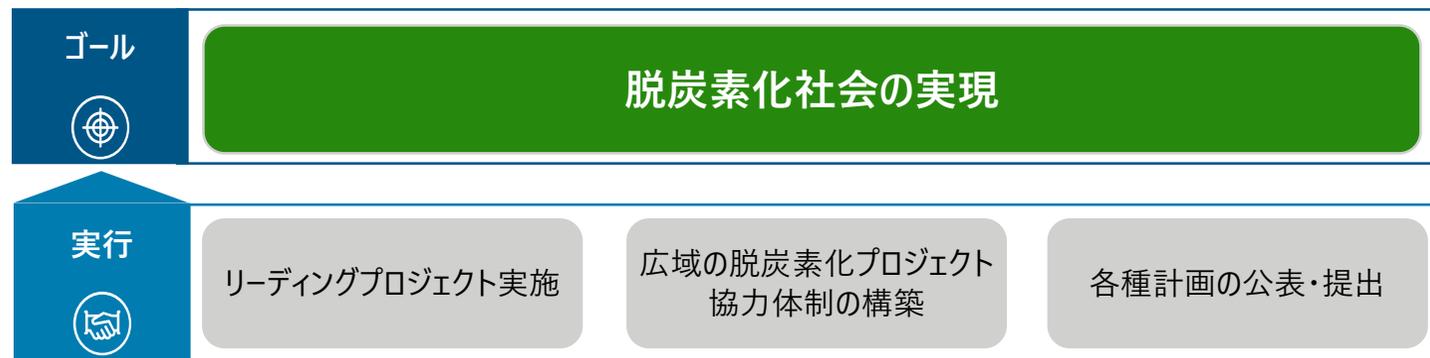
将来像



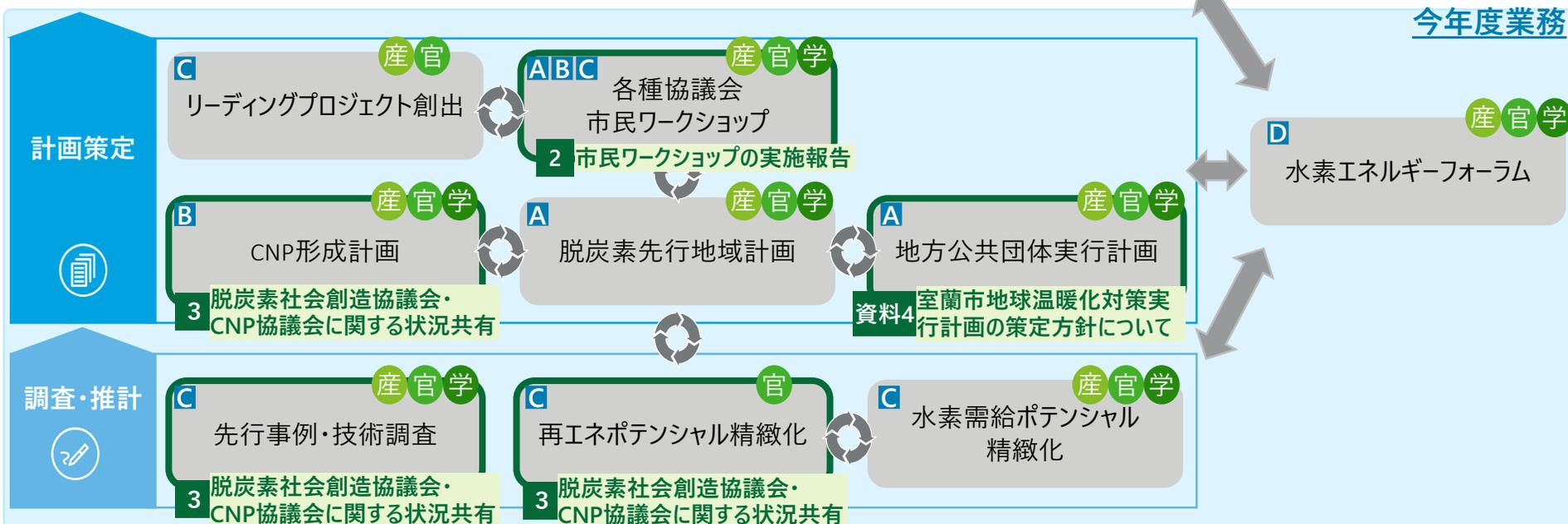
1 【今年度の室蘭市の脱炭素関連業務の概要】

室蘭市の特色を最大限発揮する産官学連携を志向しつつ、室蘭市の3つの課が連携・手動する計画策定・協議会等を進め、脱炭素社会実現への道筋をつける

実施概要



- 凡例
- A 地方公共団体実行計画の策定業務
【環境課】 ※本協議会
 - B カーボンニュートラルポート（CNP）形成計画の策定
【港湾政策課】
 - C 室蘭脱炭素社会創造協議会の開催等
【産業振興課】
 - D 水素エネルギーフォーラム開催
【産業振興課】



1 第2回協議会は、「室蘭市地球温暖化対策実行計画」策定の途中経過について、共有する場として位置づけられている

第2回協議会の位置づけ

	想定内容	想定対象
第1回 室蘭市地球温暖化対策 実行計画策定協議会	<ul style="list-style-type: none"> ■ 調査・検討の進め方について共有する 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市内関係企業、室蘭市
第1回市民ワークショップ (室蘭ゼロカーボンシティ 検討チーム)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 脱炭素に関する基本情報・市の取組について広く共有する ■ 脱炭素社会の実現に向けて、市のあるべき姿・取るべき行動について、中学生を中心にグループで議論を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市内の中学生
第2回市民ワークショップ (室蘭ゼロカーボンシティ 検討チーム)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 第1回検討・議論内容の振り返り ■ 脱炭素社会の実現に向けて、市のあるべき姿・取るべき行動について、中学生を中心にグループで議論を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市内の中学生
第3回市民ワークショップ (室蘭ゼロカーボンシティ 検討チーム)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 脱炭素に関する基本情報・市の取組について広く共有する ■ 中高生より、第1・2回ワークショップでの議論結果につき説明を行う ■ 市民から意見の聴取を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市内の中学生 ■ 市内の大人 (主婦層、高齢者等 幅広い層)
第2回 室蘭市地球温暖化対策 実行計画策定協議会	<ul style="list-style-type: none"> ■ 調査・検討の途中経過について共有する 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市内関係企業、室蘭市
第3回 室蘭市地球温暖化対策 実行計画策定協議会	<ul style="list-style-type: none"> ■ 調査・検討の結果について共有する ■ 市民からの意見の取り入れ方を議論する 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市内関係企業、室蘭市
第4回 室蘭市地球温暖化対策 実行計画策定協議会	<ul style="list-style-type: none"> ■ パブリックコメントを反映した地域実行計画にて、内容の最終確認をする 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市内関係企業、室蘭市

2 市民ワークショップの実施報告

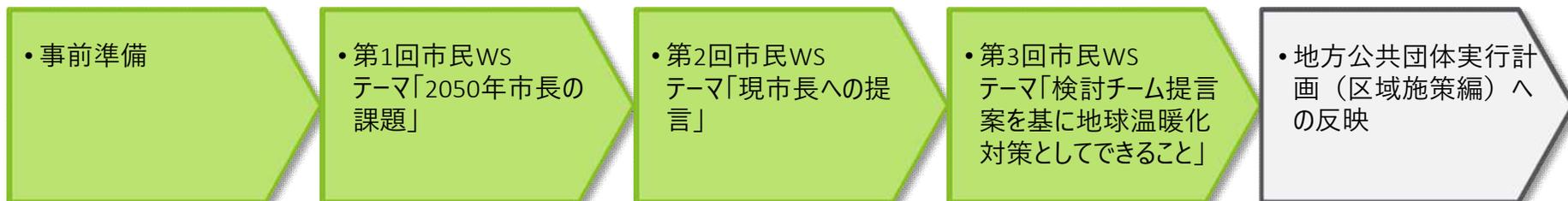
市民ワークショップは下記スケジュールにて3回実施した

市民ワークショップスケジュール

	想定内容	想定対象
第1回 室蘭市地球温暖化対策 実行計画策定協議会	<ul style="list-style-type: none"> ■ 調査・検討の進め方について共有する 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市内関係企業、室蘭市
8/18 第1回市民ワークショップ (室蘭ゼロカーボンシティ 検討チーム)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 脱炭素に関する基本情報・市の取組について広く共有する ■ 脱炭素社会の実現に向けて、市のあるべき姿・取るべき行動について、中学生を中心にグループで議論を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市内の中学生
9/7 第2回市民ワークショップ (室蘭ゼロカーボンシティ 検討チーム)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 第1回検討・議論内容の振り返り ■ 脱炭素社会の実現に向けて、市のあるべき姿・取るべき行動について、中学生を中心にグループで議論を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市内の中学生
9/26 第3回市民ワークショップ (室蘭ゼロカーボンシティ 検討チーム)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 脱炭素に関する基本情報・市の取組について広く共有する ■ 中高生より、第1・2回ワークショップでの議論結果につき説明を行う ■ 市民から意見の聴取を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市内の中学生 ■ 市内の大人 (主婦層、高齢者等 幅広い層)
第2回 室蘭市地球温暖化対策 実行計画策定協議会	<ul style="list-style-type: none"> ■ 調査・検討の途中経過について共有する 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市内関係企業、室蘭市
第3回 室蘭市地球温暖化対策 実行計画策定協議会	<ul style="list-style-type: none"> ■ 調査・検討の結果について共有する ■ 市民からの意見の取り入れ方を議論する 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市内関係企業、室蘭市
第4回 室蘭市地球温暖化対策 実行計画策定協議会	<ul style="list-style-type: none"> ■ パブリックコメントを反映した地域実行計画にて、内容の最終確認をする 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市内関係企業、室蘭市

2 市民ワークショップでは、中学生主体で地球温暖化に伴い顕在化する課題の整理から解決策の考案まで実施し、第3回では検討内容を市長に説明した

市民ワークショップの全体の流れ



- ✓ 地球温暖化について解説されている動画を視聴
- ✓ 室蘭市の地球温暖化の取り組みに関する資料、および室蘭市の将来推計に関する資料（未来カルテ）の内容確認

- ✓ 地球温暖化が室蘭市に及ぼす影響について整理
- ✓ 2050年に室蘭市長（未来市長）に就任した際に直面するであろう課題について考察

- ✓ 第1回にて整理した課題について、優先順位を付け、解決策（提言）案を検討
- ✓ 上述解決策を実行することによる影響を考察

- ✓ 第2回にて検討した解決策をブラッシュアップして、市長に提言

- ✓ 市民ワークショップにて取り上げられた提言案を、地方公共団体実行計画（区域施策編）へ反映

概要

本日まで説明

第3回協議会にてご説明予定

2 市民ワークショップの事前準備では、室蘭市の脱炭素に関する取り組みに関する資料や将来推計資料の確認を行った

市民ワークショップ（事前準備）

市民ワークショップの募集パンフレット

いま一度、**地球温暖化**について一緒に考えてみませんか？

室蘭市は2050年までにゼロカーボンシティを目指します

- 以前から問題となっている地球温暖化。
- 近年、この地球温暖化が顕著で急激な気候変動により災害等が激甚化しています。
- いま一度、地球温暖化問題について真剣に考える必要があります。

インドでは最高気温49℃を観測したんだ…

※ゼロカーボンシティとは？

- まち全体で、二酸化炭素等の温室効果ガス排出量を森林の吸収等を差し引いた上で実質ゼロとすることです。
- 全国の多くのまちで2050年ゼロカーボンシティを目指すことが宣言されており、室蘭市も2021年10月に宣言しました。

— 室蘭市では令和4年度に「室蘭市地球温暖化対策実行計画」を策定します —

2050年室蘭市ゼロカーボンシティ実現に向けた中学生検討チームメンバーを募集中！

Q.メンバーを募集して何をやるの？

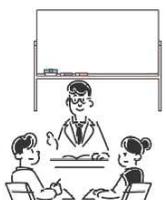
A.ワークショップ（以下WS）を実施し、改めて地球温暖化について考える機会にするとともに、WSで出た提言を計画に反映させたいと考えています。

Q.応募条件は？

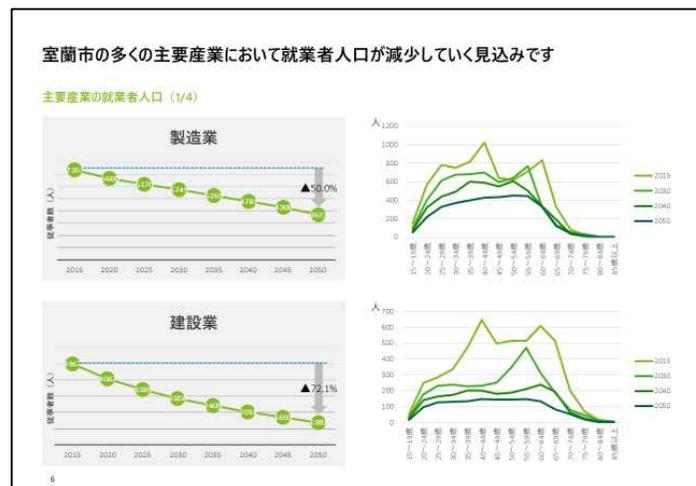
A.室蘭市内の中学生であれば学年は問いません。地球温暖化問題について少しでも興味・関心があれば是非ご応募ください。

Q.WSは回くらいやるの？

A.令和4年8月から9月にかけて3回程度実施（放課後）する予定です。WS出席1回につき1,000円分の図書カードをお渡しします。



事前準備資料



2 市民ワークショップ第1回、第2回では、市内の中学生によりゼロカーボンシティに向けた取り組みについて、積極的な議論が展開された

市民ワークショップ（第1回、第2回）

ワークショップの進め方

（個人作業）

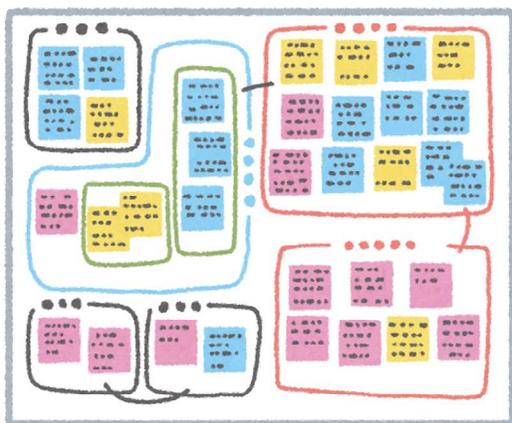
付箋紙に課題・解決策を具体的に記載

（グループ作業）

自分の考えを説明し、個人作業にて作成した付箋紙を模造紙に貼り付け

貼り付けた付箋紙をグループ化し、グループごとに命名

チームメンバー全員で、まとめた内容を発表



当日の様子



2 市民ワークショップ第3回では、第1回、第2回の内容をブラッシュアップし、その内容を市長に提言した。議論された脱炭素に向けた取り組み案は区域施策編に反映する

市民ワークショップ（第3回）

市民ワークショップにて議論された取り組み案（一部抜粋）

- 室蘭の強みである「室工大」と連携して、ゼロカーボンに関する環境教育を行うことで、市民の環境への意識の高める
- ソーラーパネルを屋上に設置する等、再生可能エネルギーを積極的に利用する
- 再生可能エネルギーの余剰電力を水素に変換し、効率的に利用する
- 自転車の利用を促進することで、自動車から排出される温室効果ガスを削減する
- 市民や企業が削減目標を設定し、達成したらクーポン等を贈呈する
- 電力使用量を見える化し、排出量を常に意識させる
- 地域企業の節電への取り組みを市が紹介することで、電力消費量の抑制と企業のPRを同時に行う

地方公共団体実行計画に内容を反映
（第3回協議会にてご説明予定）

当日の様子



3 脱炭素社会創造協議会・CNP協議会に関する状況共有

3 NEDOが実施する「水素社会構築技術開発事業／地域水素利活用技術開発／水素製造・利活用ポテンシャル調査」の委託先に採択された

NEDO委託事業

2022年6月21日



ニュースリリース

デロイト トーマツと日本製鋼所M&E、室蘭市が共同で、「水素とCCUを活用した『鉄の街』でのカーボンニュートラルな街づくりに関する調査」を実施

NEDOが実施する「水素社会構築技術開発事業／地域水素利活用技術開発／水素製造・利活用ポテンシャル調査」の委託先に採択

<https://www2.deloitte.com/jp/ja/pages/about-deloitte/articles/news-releases/nr20220621.html>

3 【本業務の背景・目的】

脱炭素化に向けて歩み始めた「鉄の街」室蘭が描く脱炭素将来像実現に向け、「水素・メタン利用、再エネ、CO2回収のポテンシャルを発揮した施策の具体化は喫緊の課題である

本業務の背景・目的及び実施概要

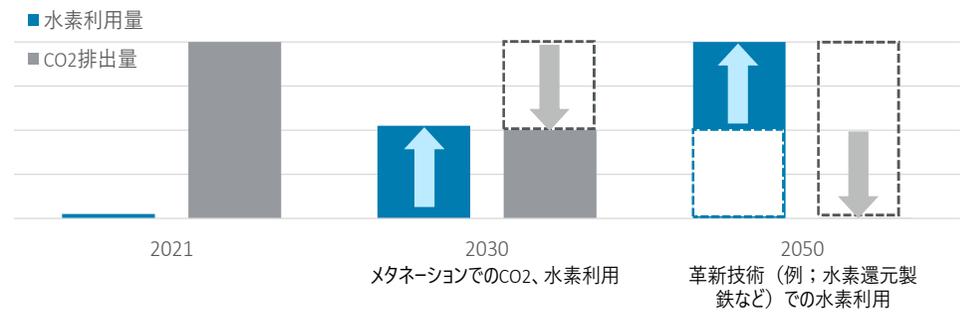
背景

国	<ul style="list-style-type: none"> ■ 2020年10月の「2050年カーボンニュートラル」宣言以降、カーボンニュートラルの実現に向けた議論が加速 ■ グリーン成長戦略において、エネルギー関連産業では、次世代再生可能エネルギー、水素・燃料アンモニア、次世代熱エネルギー、原子力を重要検討項目として検討が進められている
北海道	<ul style="list-style-type: none"> ■ 北海道は現状全国で最も再エネ電源の導入ポテンシャルが電力需要を上回っており、さらに今後洋上風力発電の候補案件も複数ある ■ 2020年には北海道水素社会実現戦略ビジョンを策定し、水素を活用した脱炭素化の方針がある
室蘭市	<ul style="list-style-type: none"> ■ エネルギーに適した港湾設備と、製鉄や製鋼業など製造業中心の産業構造を有し、現在は環境省の水素関連実証が進められている。また、室蘭沖での洋上風力発電の検討、苫小牧でのCCUSの実証が進み、「水素・メタン利用」「再エネ」「CO2回収」のポテンシャルがある ■ 2021年5月に室蘭脱炭素社会創造協議会が設立され、産業・民生利用を含めた水素を利活用するカーボンニュートラルな街づくり推進のモメンタムが形成されつつある ■ さらに、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」を宣言。2050年ゼロカーボンシティを実現するためにはあらゆる分野の脱炭素化を進めることが重要である

目的

室蘭やその周辺地域、カーブ経済圏における脱炭素に対する面的な施策として、水素の利活用や、その一部としてのメタネーション実施を検討する

室蘭市地域における脱炭素化移行イメージ

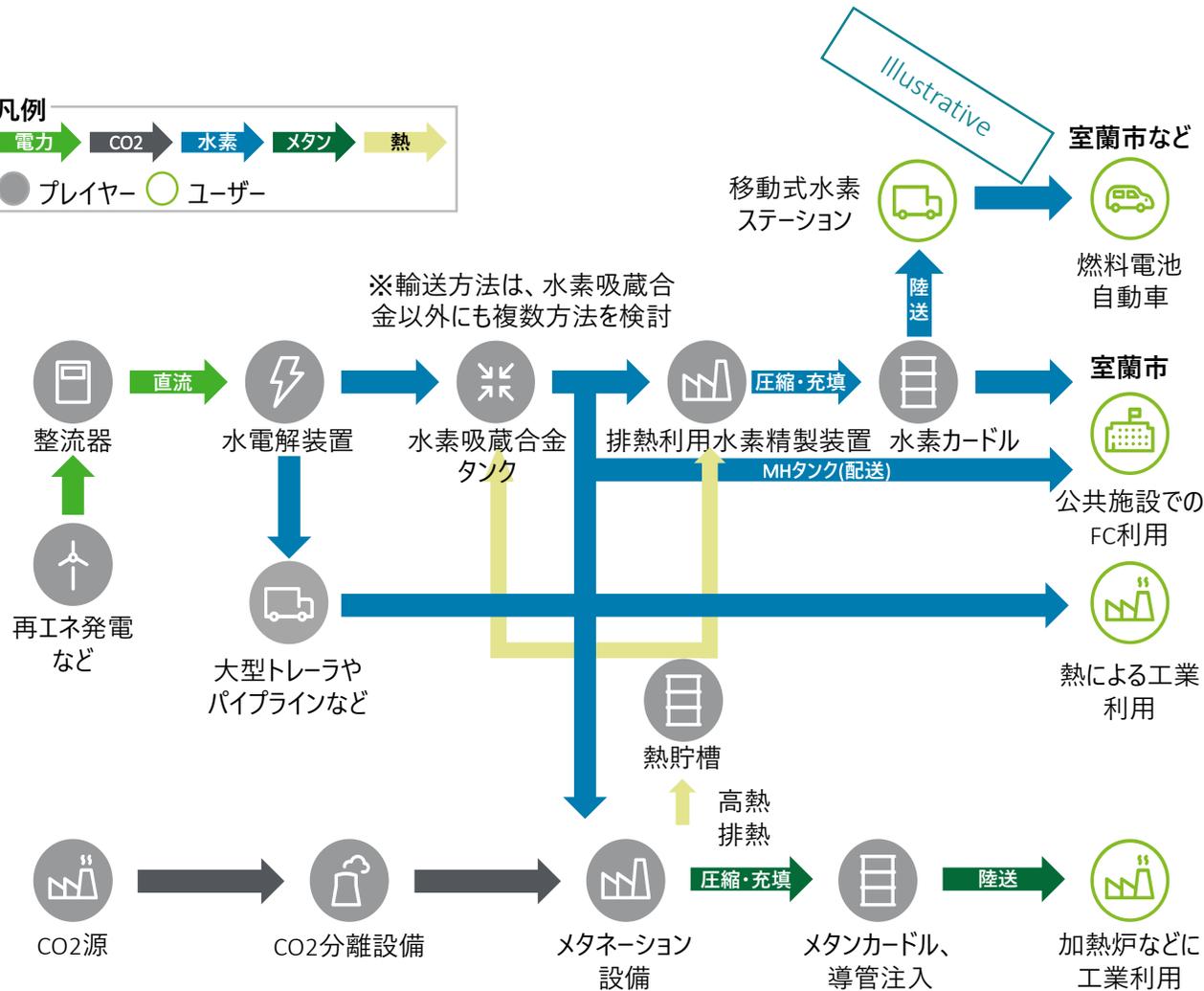


3 【水素社会モデルの概要】

鉄鋼業で利活用可能な合成メタンの導入を初期マイルストーンとしてインフラ整備を進め、室蘭やその周辺広域における将来的な水素を基盤としたエネルギーシステム構築を目指す

室蘭市と広域圏における水素モデル検討

プロジェクト トコンセプト	<ul style="list-style-type: none"> 室蘭において“鉄の街”脱炭素化先導モデルを構築し、室蘭発で全国各地の“鉄の街”における大規模な水素の社会実装・脱炭素化社会を推進 	
水素 SC	製造	<ul style="list-style-type: none"> 再エネ電源由来で水素を製造 室蘭市内で回収したCO2からグリーンメタンを製造
	貯蔵・輸送	<ul style="list-style-type: none"> 室蘭市内の企業である日本製鋼所M&Eにて製造されている水素吸蔵合金タンクにて、水素を貯蔵・輸送 水素吸収時に発熱した熱及びメタネーション設備からの排熱を熱貯蔵タンクに貯蔵し、水素利用時に貯蔵した熱を利用 パイプライン敷設や大型トレーラー等のほかの輸送方法についても経済性やインフラの可能性を踏まえて検討
	利用	<ul style="list-style-type: none"> グリーンメタンは室蘭市内の鉄鋼業の工場における加熱炉などで利用 水素は市内のステーション、公共施設、港湾など、さらには近隣地域における利用（新千歳空港なども含む）を検討



3 【期待される効果】

室蘭モデル構築により、鉄鋼業を主要産業とする他都市に対するリーディングプロジェクトとして参照され、全国大での取り組み加速に寄与することが期待される

室蘭モデル構築のベネフィット

室蘭モデルの全国の脱炭素化への想定効果

室蘭市においてメタネーションを軸とした段階的な水素社会の構築の為に調査及び実証が行われる

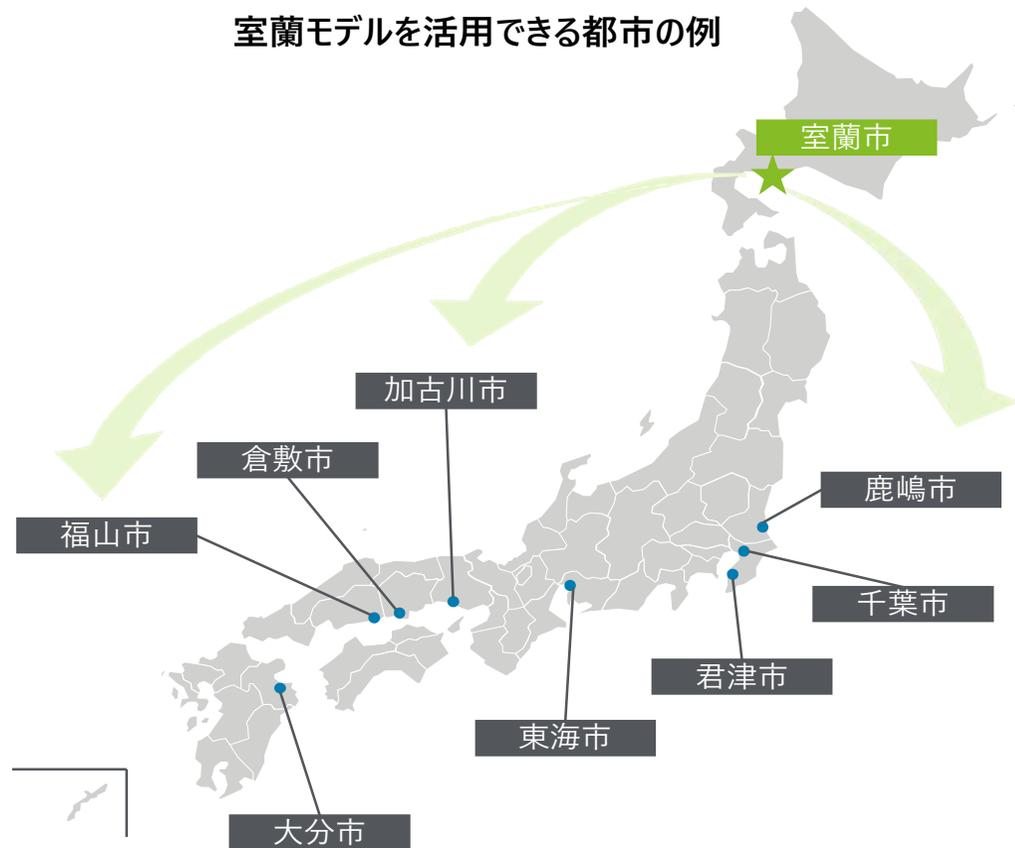


同様の課題を抱える都市は室蘭市での検討を参考に脱炭素に取り組むことが可能となる



誰も取り残すことのない、全国レベルでの脱炭素につながる

室蘭モデルを活用できる都市の例



室蘭市モデルを活用できる都市抽出条件：

- ①製鉄所が存在する（廃炉が公表された都市は除外）、②鉄鋼が主な産業（工業）である、③港湾が存在する ※ただし、特に先進的な取組を行う川崎・神戸・北九州は除外

3 【室蘭港カーボンニュートラルポート協議会の実施状況】

「カーボンニュートラルポート」を形成するため、次世代エネルギーの将来需要の推計や利活用の方策とともに、これらに必要となる港湾施設の規模・配置等について検討を行う

協議会の概要

	第1回協議会	第2回協議会*1	第3回協議会*1,*2
日時	2022年6月27日	2022年11月頃	2023年2月頃
アジェンダ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 背景・目的 ■ 室蘭市のCNPに関連するこれまでの取組 ■ 今年度のCNP形成計画の実施方針 ■ ヒアリング等皆様へのお願い 	<ul style="list-style-type: none"> ■ これまでの活動報告 ■ 今後の進め方 ■ 室蘭港CNP形成計画素案の提示 	<ul style="list-style-type: none"> ■ これまでの活動報告 ■ 次年度以降の進め方 ■ 室蘭港CNP形成計画の承認
想定参加者	<ul style="list-style-type: none"> ■ 関係団体 室蘭エージェント会*3、室蘭洋上風力関連産業推進協議会*3、北海道港運協会室蘭支部*3、室蘭船主協会*3、室蘭通関業者協議会*4、日本関税協会函館支部室蘭地区協議会*5、室蘭地区倉庫協会*6、室蘭タグ事業協同組合、室蘭地区トラック協会、室蘭漁業協同組合 ■ 民間事業者 日本製鉄(株)北日本製鉄所、日鉄エンジニアリング(株)、日本製鋼所M&E(株)、ENEOS(株)、(株)檜崎製作所、函館どつく(株)、(株)タカヤナギ、五洋建設(株)、大成建設(株)、日本通運(株)道南支店、エアウォーター北海道(株)、北海道電力(株)、(株)ユーラスエナジーホールディングス ■ 学識経験者 室蘭工業大学院 木村教授、東海大学海洋学部 渡邊教授 ■ 関係行政機関 国土交通省北海道開発局港湾空港部港湾計画課、国土交通省北海道開発局室蘭開発建設部築港課、国土交通省北海道開発局室蘭開発建設部室蘭港湾事務所、国土交通省北海道運輸局室蘭運輸支局、室蘭市経済部産業振興課 ■ 事務局 室蘭市港湾部港湾政策課、デロイトトーマツコンサルティング 		

*1:日程とアジェンダは仮の予定とする、*2:現時点では3回程度開催すると想定。必要に応じて調整する可能性有

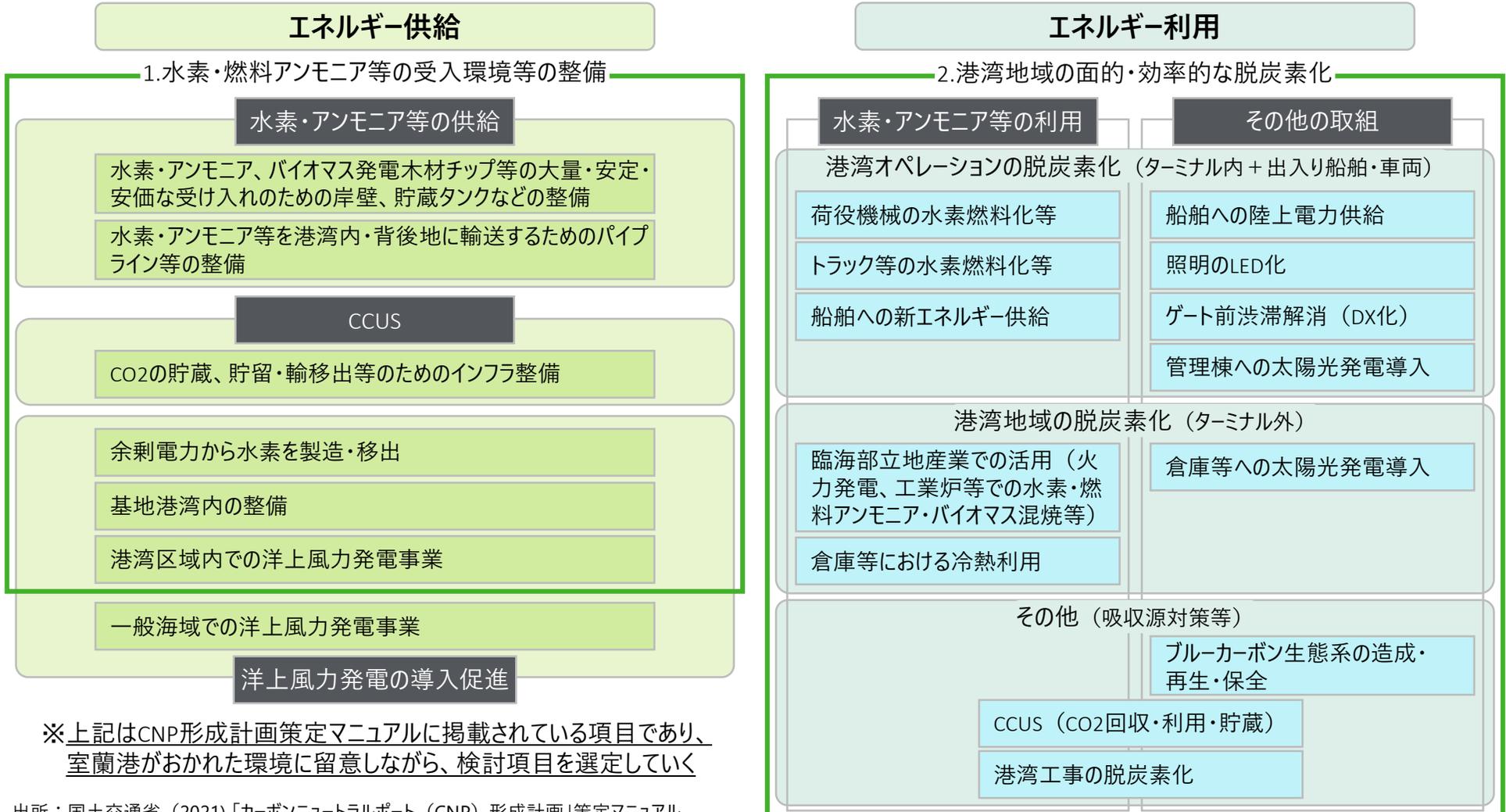
*3:事務局：(株)栗林商会、*4:事務局：室蘭海陸通運(株)、*5:事務局：ナラサキスタックス(株)室蘭支店、*6:事務局：室蘭開発(株)

3 【CNP形成計画策定マニュアル】

次世代エネルギー等の受け入れ設備や環境に配慮した港湾機能の高度化を図りながら、CNP形成計画の対象範囲から検討項目を選定する

CNP形成計画の対象範囲

凡例 : CNP形成計画の対象範囲



※上記はCNP形成計画策定マニュアルに掲載されている項目であり、室蘭港がおかれた環境に留意しながら、検討項目を選定していく

3 【国によるCNPの検討状況】

昨年度よりカーボンニュートラルポート形成計画に着手している6地域7港の結果と室蘭港
カーボンニュートラルポートの取り組み検討例

CNP先行地域の概要

	CO2排出量	水素需要量ポテンシャル	水素等に係る取り組み検討例	その他の取組検討例
新潟港	1,070万t/年 (ターミナル外で1,040万t)	30万トン/年	<ul style="list-style-type: none"> ■ ダンプトラック・荷役機器のFC化・水素ST整備 ■ 水素ステーションの整備 ■ LNG火力発電への水素混焼・港湾施設の整備等 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 陸上電力供給施設の整備 ■ 既存ガスパイプライン、臨港鉄道等を活用した広域供給拠点化 ■ ブルーカーボン
小名浜港	1,600万t/年 (二次輸送先も含む)	29万トン/年 (アンモニア換算156万トン/年)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 石炭火力アンモニア混焼(20%) ■ 大量の燃料アンモニア受け入れ環境 ■ 液化水素受け入れ環境、港湾物流の脱炭素化(ダンプトラック・荷役機器のFC化・水素ST整備) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 短期はバイオマス燃料 ■ CCS/CCUS ■ 地域産業・被災地復興
横浜港 川崎港	2,210万t/年 (発電所製鉄所含む ターミナル外で2,158万t)	267万トン/年 (石炭火力への燃料アンモニア混焼、 天然ガス火力への水素混焼を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ■ メタネーション向け水素製造 ■ CO2フリー水素SC検討 ■ 荷役機械FC化実証 ■ 船舶燃料水素転換等 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 年間5,000万トンの化石燃料の輸入 ■ CN燃料SCの構築
名古屋港	2,826万t/年 (臨海部産業活動で 2,826万トン)	230万トン/年 (臨海部産業活動で223万トン/年) (2030年ターゲット35万トン)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 荷役機械及び輸送車両FC化 ■ PVの活用 ■ 陸上給電CN化 ■ 発電所ゼロエミ化 	<ul style="list-style-type: none"> ■ ヤード照明・ターミナル管理棟のCN化
神戸港	580万t/年 (ターミナル外で553万t)	15万トン/年 (20%混焼及びターミナル内 における荷役機械のFC化等が 100%実現)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 荷役機械・係船時の陸上給電FC化 ■ コンテナ用トラクターヘッド等への燃料電池の導入 ■ 次世代エネルギーへの取組等 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 空調・照明等への次世代エネルギーへの取組等 ■ 神戸港SDGsブランド化 ■ 次世代エネルギーの輸送・備蓄・配給等
徳山 下松港	1,140万トン/年 (ターミナル外で1,140万t)	23~116万トン (水素20%~100%利用)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 副生水素のグリーン化及び地産地消の取組強化 ■ 陸上給電、鉄道、船舶、車両等の水素化 ■ 大規模な水素・アンモニア輸送・貯蔵・供給 ■ 水素需給へのインセンティブ施策等 	<ul style="list-style-type: none"> ■ バイオマス輸入、バイオマス・アンモニア混焼 ■ 港湾荷役機械・車両等の電動化(災害時の活用) ■ CO2回収・集積・輸送
室蘭港	132.7万トン/年 (ターミナル外で130.4万t) ※R3年度開発局による 検討業務結果より	14万トン/年 (水素0.03万トン/年、MCH14万トン/ 年) ※R3年度開発局による検討業務結果より	<ul style="list-style-type: none"> ■ 港湾荷役機械のFC化・FCV車両の導入や水素ステーションの追加導入の検討 ■ セメント工場、鉄鋼製品工場における各種燃料への混燃を検討 ■ MCHの貯蔵施設の検討、メタネーションの検討 	<ul style="list-style-type: none"> ■ バイオマス受入の推進を検討 ■ CCUの活用を検討 ■ ブルーカーボンの検討 ■ 洋上風力基地港湾の整備を検討

出所：国土交通省「カーボンニュートラルポート（CNP）検討会の結果及びCNP形成計画作成マニュアル骨子をとりまとめました」（2021/4/2）、

3 【室蘭市におけるCNP形成計画】

室蘭港におけるCNP形成に向けた主な方策案は以下となる

室蘭港のCNP形成の方策案

エネルギー供給関連

1 水素、燃料アンモニア、バイオマス発電用チップ等の輸入などのための受入環境整備

- 工場・港湾・モビリティ等水素需要に対して、将来の大規模な水素・燃料アンモニア等の需要に備え、室蘭港における受入環境の整備も視野に入れる
- 本輪西地区では、バイオマス発電燃料の輸入効率化のため、老朽化した岸壁や、未利用の公有水面を埋め立て、大型船輸送への対応や、北海道におけるバイオマス燃料の受入・供給拠点の形成を図る

2 洋上風力の導入促進に不可欠な基地港湾の整備

- 崎守埠頭における海洋再生可能エネルギー発電設備等拠点港湾（基地港湾）の整備と、祝津埠頭に基地港湾を補完する機能を検討する
- 関連産業の誘致より、港湾立地産業強化策を策定する

エネルギー利用関連

3 港湾ターミナル内の脱炭素化

- 公共ターミナルにおいて、管理棟や照明施設等の再エネ100%力化に取り組むとともに、港湾荷役機械の脱炭素化や停泊中の船舶への陸上電力供給、自立型水素等電源の導入を検討する

4 港湾ターミナル外の脱炭素化

- 臨港地区に立地する企業が、水素・燃料アンモニア等のサプライチェーンの拠点としての受入環境等の整備に係る取組を通じて、地域における面的・効率的な脱炭素化を推進する

5 ブルーカーボン生態系によるCO2吸収

- 環境への配慮を前提に、温室効果ガスの吸収のため藻場創出の可能性を検討する